

【区域】 大町市、白馬村、小谷村

【連携する主な事業者】

大町市、白馬村、小谷村
大北地区索道事業者協議会
大町市観光協会、
(一社)白馬村観光局、
(一社)小谷村観光連盟

【KPI(実績・目標)】

区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
旅行消費額 (千円)	29,495,292	29,844,876	30,005,630	30,328,720	30,644,805
延べ宿泊者数 (千人)	2,909	2,909	2,947	2,972	2,987
来訪者満足度 (スキー場)※1	8.5(9.1)	8.2(9.0)	8.3(8.9)	8.4(8.9)	8.4(8.9)
リピーター率(%) (スキー場)	67(31)	67(34)	71(38)	70(38)	70(38)

【設立時期】 平成31年4月3日

【代表者】 高梨 光

【マーケティング責任者】 西山健太郎

【職員数】 4名

【体制図】 裏面のとおり



【県の関わり】

三市村の首長、観光部、地域振興局、観光機構で構成するアドバイザーボードの一員となり、役割分担の支援を含め、DMOを舵取り役としたエリアの取組を後押しする。

※ 数値の()内は外国人に関するもの ※1 満足度は0~10点の11段階評価

エリアのコンセプト

世界に誇る雄大な北アルプスの自然環境、日本らしさを感じる地域文化を背景に、観光客を魅了する満足度の高い滞在環境を提供し、SDGsの観点を採り入れ、観光を軸に地域経済が豊かに循環し、そこに住む人々が誇らしく生活できる地域

目指す姿実現に向けた取組

コンセプトを裏付けるストーリー

日本最大級のスノーリゾート

- ・「HAKUBAVALLEY」は多彩なゲレンデを楽しめる国内最大級のスノーエリアとして国内外に認知されている。
- ・DMOを中心とした環境に配慮したブランド構築により、国内外の意識の高い顧客が繰り返し訪れている。

世界からファンが集う

多彩な自転車コースの舞台

- ・山岳や山麓の地形を活かした、豊かかつ高水準のコースを擁し、多彩なイベント開催が通年での集客に貢献する。
- ・CO₂排出量ゼロのサイクルツーリズムがエリアのブランド化にもつながる。

山岳エコツーリズムの聖地

- ・雄大な山岳景観、高山植物やライチョウといった希少な動植物、清流や雪渓、パウダースノーといった地域固有の自然を、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく楽しめ、本エリアならではの価値を生んでいる。

〇サステイナブルツーリズムのブランド化

地域の森林資源を活用し、バイオマスエネルギーの地域内循環に取り組む。世界級リゾートに欠かせないサステイナブルブランドとして発信。

〇ICチップによるエリア内スキー場のフリーゲート化、エピックパスの導入

良質のパウダースノーが楽しめる日本最大級のスノーエリアのリフトの共通化と、世界のトップアライアンス「エピックパス」の導入により、世界へアピール。

〇エリア内周遊バスの効率化、利便性向上

スキー場間を結ぶシャトルバスを充実するとともに、複数の事業者の運行体制を整理して、利用者の利便性を向上。

〇MTBコースの整備

ゲレンデを活用したMTBコースを増設し、エリア内のコースバリエーションを充実、通年型リゾートの重要コンテンツとしてブランド化。

〇バックカントリーの統一化

増加するバックカントリーに対する安全対策として策定された「白馬ルール」をエリア全体の統一ルール「ハクババレールール」に拡大。

〇日本文化が感じられるまちなみ整備（古民家の利活用）

「旅籠丸八」など、地域の魅力である古民家の価値を認識し、将来に受け継ぐためのリノベーションや活用により、滞在する楽しみを感じられるまちづくりを推進。

〇ワンストップ予約システムの構築（宿泊、アクティビティなど）

アクティビティ、宿泊等のエリア内情報と予約を一元的なシステムで対応。

〇エリア内を案内するアプリ

滞在期間中の情報収集ツールとして、HAKUBAVALLEYアプリを更に充実。

〇顧客データ収集システムの充実によるマネジメントの強化

スキー顧客データに加え、夏季の顧客データも収集するシステムを開発し、DMOが地域全体をマネジメントする体制を強化。

目指すべき観光地域の姿(将来像)

①滞在するだけでも楽しい「まち」がある

- ・魅力的な飲食店やショップ等が集積され、それらへの移動も容易になっている。

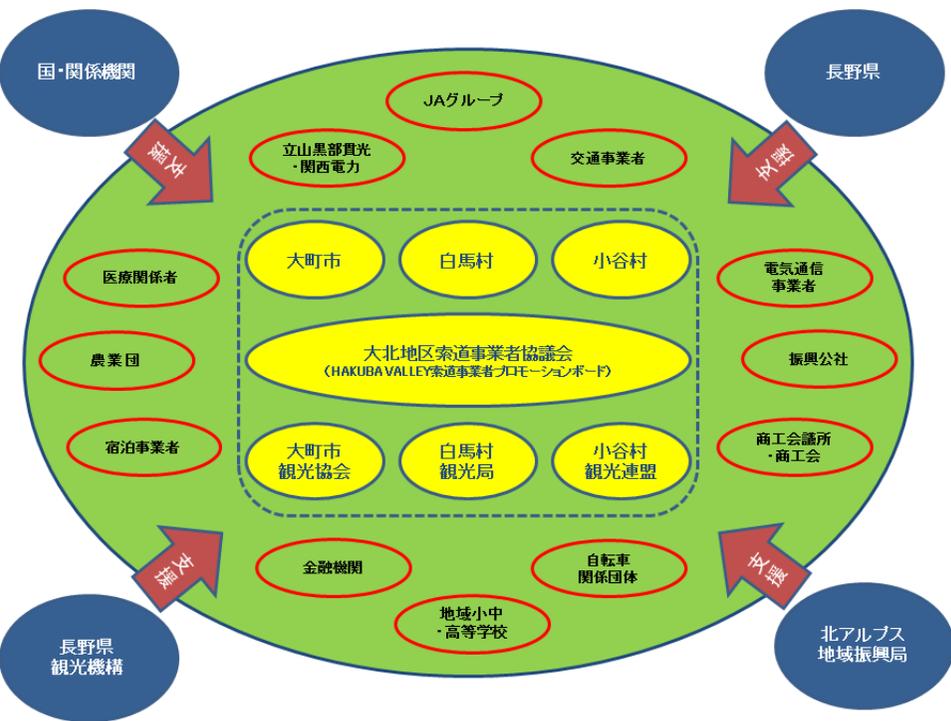
②世界からの顧客を受け入れられる環境がある

- ・日本文化を残しつつ自然景観を楽しめる「世界からの顧客」を満足させられ、長期滞在・リピート率が向上している。

③サステイナブルツーリズムを実践しているエリア

- ・バイオマス等のエネルギーの地域内循環を実践し、高い再生可能エネルギー自給率を実現している。

(体制図)



(エリア内地図)

